

## 持続可能な部活動とは？

### 旭川市立緑が丘中学校の取組～部活動数の適正化～

旭川市立緑が丘中学校では、平成元年から令和元年までの約30年間で、生徒数が4割、顧問可能教員数が3分の1減少したにもかかわらず、部活動数は19部のままでした。

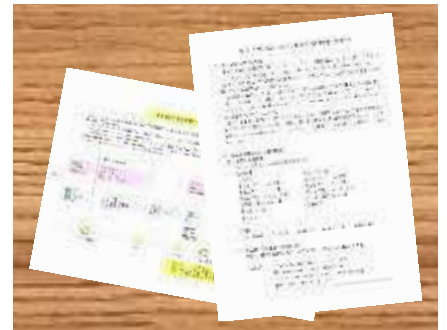
生徒の安全・安心な活動を保障するためには、複数顧問の配置が必要と考え、「部活動設置基準」の見直しに着手することにしました。



	生徒数	学級数	顧問可能教員	部活動数	最低必要教員数
平成元年	997人	25学級	48人	19部	38人
令和元年	587人 (▲410人)	17学級 (▲8学級)	32人 (▲16人)	19部 (±0部)	38人 ※6人不足

〈令和2年度へ向けての見直し内容〉

- 美術部・パソコン部・家庭部 → 文化部 (3部→1部)
- 〈スケジュール〉
- 1学期 ～ 対象部活動顧問に事情を聞くとともに、承認を得る。
- 夏季休業 ～ 校内の部活動委員会で決定。
- 2学期初 ～ 職員会議で教職員に周知。
- 2学期中 ～ 対象部活動の生徒及び保護者への説明(説明会)。
- 3学期初 ～ 全保護者へ説明文書を配布。
- 3学期中 ～ 校区の小中学校に周知。



## ポイント！

- 対象部活動の明確な選定基準
- データを用いたロジカルな説明
- 保護者、生徒、校区小中学校等への丁寧な周知・説明

## ひとつ

部活動の見直しに際しては、「総論賛成、各論反対」の状況に陥ることも考えられますが、上記のポイントを参考にし、長期的な見通しを持って進めましょう。また、学校と教育委員会が連携して取り組むことも重要です。

～「北海道の部活動の在り方に関する方針」から～

- 校長は、生徒や教師の数、部活動指導員の配置状況を踏まえ、**指導内容の充実(部活動顧問の専門性等)**、**生徒の安全の確保**、**教師の長時間勤務の解消等の観点から円滑に持続可能な部活動を実施できる**よう、適正な数の部を設置する。

## 吹奏楽部も効率的・効果的に活動しています！

### 旭川市立東光中学校（吹奏楽部）の取組

平成30年に文化庁が実施した「文化部活動の実態把握に関する調査」では、「吹奏楽」や「マーチング・バンド」の活動日数、活動時間が長い傾向が見られます。

旭川市立東光中学校吹奏楽部では、活動日数、活動時間を短くしながら成果を上げていることから、その取組をご紹介します。

#### <部活動休養日の推移>

- 2016年度：年間 40日
- 2017年度：年間 53日
- 2018年度：年間101日
- 2019年度：年間120日程度



#### <取り組んだこと>

- 演奏曲目等の精選
  - ・複数の本番（コンクールや演奏会等）で使えるレパートリーを精選
  - ・練習に時間を要する振付（ダンプレ）を廃止
- 定期演奏会における企画の見直し
  - ・大道具・小道具などを要する大がかりな演劇を行ってきたが、企画内容を縮小
- 練習内容の工夫
  - ・基礎的な演奏能力の向上に努める
  - ・各自の目標設定を見える化し、スモールステップで上達
  - ・演奏曲目のスコアを貼り出し、改善点を互いに書き込み、共有

#### <効果・成果>

- 部活動出席率の向上
- 北海道吹奏楽コンクール金賞（2018～2019年度）

### 【ワンポイント】

吹奏楽部に限らず、「選択」と「集中」で効率化

## ひとこと

2016年度に現在の顧問が赴任してから、年々休養日を増やしていますが、当初は保護者から練習不足を不安視する声があったのも事実です。

しかし、練習方法等を工夫することで、2017年度には北海道吹奏楽コンクール旭川地区予選で金賞を受賞、2018年度からは2年連続で北海道吹奏楽コンクールで金賞を受賞することができました。

生徒は、吹奏楽以外の活動もでき、練習での集中力も上がっています。